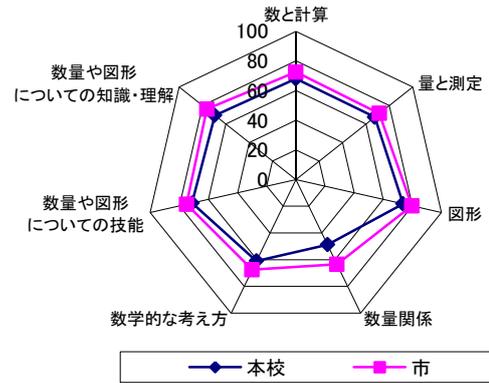


宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	67.9	72.5
	量と測定	67.5	71.5
	図形	73.6	79.6
	数量関係	48.8	63.5
観点別	数学的な考え方	61.0	67.6
	数量や図形に関する技能	71.3	75.1
	数量や図形に関する知識・理解	69.5	76.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、67.9%と市の平均より低い。特に、「小数の除法」の問題における正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数の除法の方法について、改めて確認し、計算ドリルの問題に繰り返し取り組ませていく。計算が苦手な児童については個別に対応していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、67.5%と市の平均より低い。特に、「単位量あたりの大きさのこみぐあい」の問題における正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの大きさについては、「1㎡あたり」「1人あたり」というキーワードを用いて、アニメーションで視覚的に確認させることで復習を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、73.6%と市の平均より低い。特に、「四角形の対角線の性質」や「四角形の内角の和」の問題における正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、三角形や四角形の特徴について、正しく理解させるために復習問題に取り組ませていく。実際に作図し、三角形や四角形の性質についてじっくり考える機会も設けていく必要がある。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、69.5%と市の平均より低い。特に、「ともなって変わる二つの数量関係」の問題で正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> もう一度、比例とは何かを想起させ、日常生活の中におけるともなって変わる二つの量を見つけ、考えさせ、復習を図っていく。